

「若者とともに進める信州創生 ～若者タウンミーティング～」会議録

テーマ 「この地域に若者を呼び込むためには？」

日 時 平成27年5月19日（火） 午後6時から7時35分まで

場 所 北信州森林組合「創森館」2階会議室（中野市壁田）

目 次

1	開会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
2	ワールド・カフェ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
3	全体共有	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 6
4	知事総括	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 12
5	閉会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 13

進行役 倉根明德氏（信州イノベーションプロジェクト（SHIP）共同代表）

参加者 公募による20歳代から40歳までの男女

阿部守一（長野県知事）

この県政タウンミーティングは、ワールド・カフェ方式による意見交換を実施しました。
各テーブルの意見交換の内容は省略してあります。

1 開 会

【広報県民課長 藤森茂晴】

皆様、お待たせいたしました。ただいまから県政タウンミーティングを開催いたします。意見交換までの進行のほうを務めさせていただきます、私、長野県企画振興部広報県民課長の藤森茂晴と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、本日の県政タウンミーティングは、地方創生のトップランナーを目指す本県が、その未来を担う若い世代の皆様と意見交換を行う「若者タウンミーティング」でございます。第1回目を今年の2月に行っております。今回は2回目ということで、今年度は初めてということになります。

それでは、おおむね19時30分ころまでの予定として意見交換を行ってまいります。なお、この意見交換の内容につきましては、お名前などの個人情報を除き、後日、県のホームページで公開させていただきますのでご承知ください。

本日のタウンミーティングは、ワールドカフェ方式で意見交換をしますが、その進行役となるカフェホストを倉根明德さんをお願いしております。なお、倉根さんの紹介は、お手元に配布してございます資料に記載してございます。それでは倉根さん、この後の進行をお願いいたします。

2 ワールド・カフェ

【倉根明德氏】

皆さん、こんにちは。今、紹介していただきました、県庁に勤めています倉根と申します。本日はよろしくお願ひします。

では、まず簡単に自己紹介をさせていただきます。名前は、今、紹介していただいたとおり、倉根明德、今日はアッキーという名前でやりたいと思います。小諸出身の36歳で、妻と息子が2人います。大学時代からずっと都市計画やまちづくりの勉強をしてきました。平成15年に県庁に入って、今は地域振興課というところにいますが、今日はその仕事とは全く関係のないことで借り出されております。

なぜかという、平成23年に県庁の若手職員で、もっと県庁の外で楽しいことをしようと「信州イノベーションプロジェクト（SHIP）」という会を立ち上げました。最初は県庁の職員10人で始めた会だったんですけど、1年半ぐらいですね、やっていくうちに、どんどんいろいろなネットワークができて、今は民間の方も含めると70人ぐらいですかね、もう圧倒的に民間メンバーが多いような感じになっています。

皆さん、多分、ご存じかと思う信州若者1000人会議とか、この近くでやっていたこととすると、小布施の着物コンテストとかで、ファシリテーターとかをやらせていただいた関係で、今日、僭越ですが、進行をさせていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

本当は、今日、皆さんに10分前に集まってもらって、緊張しているだろうからアイスブレ

イクをしようと思っでいろいろ考てきたんですけど、皆さん楽しそうにお話してて、すでにブレイクしてたので、やめました。

信州イノベーションプロジェクト、SHIPなんですけど、簡単に説明すると、「信州をどこよりも楽しい場所にする」って目的のために、いろいろな地域に出かけていって地域活動のサポートをしたり、自分たちでも様々な活動をしたりしています。私たちが定期的にやっているのはオープンカフェ、左上のもんですけど、月に1回、主には長野市内なんですけど、いろいろなカフェとか、こういうコワーキングスペースみたいなところに集まって開催しています。つい先週もやって、参加者は35人ぐらい、うち県職員は5人ぐらいしかいなかったんですけど、いろいろな方がここに参加して交流するということをやっています。

また、いろいろなことをやっていたら、JICAさんと一緒に何かやろうという話になり、JICAさんと一緒に料理教室をやったり、そして1000人会議に行ったり、あと安曇野市で10年近くやっているお祭りに参加したり、また、今日みたいな感じで、県庁の新規職員の研修で少ししゃべってくれと言われて、メンバーがしゃべったりもしました。そんな活動をしています。

ということで、今日、ワールド・カフェをしていきたいと思うんですけど、多分、皆さん、事前に配布された資料をご覧になっていると思うので、やり方はご存じかと思うんですけど、簡単に説明していきたくと思います。まず、ワールド・カフェですが、会議室で悶々とか、延々と長く続く会議というのは、なかなかいいアイデアも出てこないし、あまり面白くない。それよりも、実はその会議室から出て、休憩時間にお茶とか飲んでる時間、雑談の中でのほうがいいアイデアが出てきたりするというのが発端でできた、話し合いの手法になります。ですので、今日も、机の上にお菓子があつたり、ドリンクがあつたりしますので、つまみながら話をしていただきたいなと思っています。

ワールド・カフェの進め方なんですけど、まずテーブルごとにテーマに沿った会話をしていきます。それで20分間、会話をした後、メンバーを変えてもう20分、さらにメンバーを変えてもう20分という形で、今回は3ラウンドやりたいと思います。で、お手元に付箋があるかと思うんですけど、誰かが言った言葉でいいなとか、ちょっとこれ書きとめておきたいなというようなキーワードが出てきたら、付箋に書いてもらってペタッと張ってもらおう。ただしゃべっているだけですと残らないので、なるべくメモみたいな感じで残してもらって、付箋に書いていただきたいと思います。これ、下にあるのは、以前、SHIPでワールド・カフェをやったときのものなんですけど、もうこのぐらい付箋が出るぐらい、ちょっと見にくいんですけど、もうたくさん出ました。

ワールド・カフェには、一応、幾つかルールがあるんですけど、今日、5つ、ルールを決めます。まずテーマに沿った会話をしましょうということ。俺、最近ちょっとコスプレに興味があるんだとか言われても、話が飛んじゃうので、今日のテーマは、あそこに書いてある「この地域に若者を呼び込むためには？」というテーマなんで、このテーマに沿って話をしましょうということ。

あと話は短く、簡素にですね。いろいろな方の意見を聞く場なので、自分もしゃべりますが、なるべく短くですね。

あともう一つ、皆さんの開始前の10分間の様子で確信しましたが、始まってしまうと、私がこの声でマイクでしゃべっていても誰も聞いてくれなくて、「前向いてください、1ラウンド終わりですよ」と言っても、多分、誰も聞いてくれないので、私、右手を上げますので、それに気づいた人は、黙って右手を上げて前を向いてください。わかりますか。それで最後までしゃべっている人がわかりますから。

4つ目はニックネームで呼び合うということです。今日、知事も来ていますし、いろいろな立場の方がいるんですけど、知事にこんなことを言っているのかってなってしまうと、おもしろくないので、まだ知事ですけど、始まったら今日はカバナーさんと呼んであげてください。まだ知事ですよ、まだ知事ですけど、ということです。

あと一番大事なのは、楽しみましょうということです。さっきの感じでワイワイガヤガヤとやってもらいたと思います。実はこれ、ちょっと見にくいですが、以前知事と一緒にワールド・カフェをやったときの写真なんですけど、知事がものすごい笑顔なんですね。知事室では見せない、このすごい笑顔。このときは若者と今日みたいな感じでやったんですけど、知事が一番楽しそうにやっていたなという感じです。知事がこれだけ楽しくやっているんで、緊張している時間をもったいないですね。知事が一番楽しんでいるので、知事よりも楽しんでやるというつもりで参加していただければと思います。ちょっと無茶ぶりですが、知事、何か一言。目指すところを。

【長野県知事 阿部守一】

今日はね、普通は、いつも県の会議って、大体みんなわかるでしょう。まず主催者あいさつ、知事があいさつしますけど、つまらないことを話すよりも、よっぽど倉根さんの司会でやったほうが良いと思って、今日はちょっと趣向を変えていますので。県の仕事のやり方も、このワールド・カフェみたいに、ぜひ変えていかなきゃいけないと思っています。

今日のテーマ、私は、倉根さんたちSHIPの活動の、私はアドバイザー。

【倉根明德氏】

アドバイザーです。

【長野県知事 阿部守一】

さっきあそこを見ていたら、何か40歳以上は、何か別扱いされているんで、何か私は一緒にやっているつもりだったんで、ちょっとショックだったんですけど。とにかくこれからの長野県をどうしていったらいいかというのは、やっぱり若い人たちがどういう夢やどういう希望を持っているかということが反映されなければ、今まで行政がやっていたことの積み上げで、多分、若者、定住したくないですよ。したくないとは言わないけど、すごく魅力あるものにはなっていないんで。是非ね、日ごろ妄想していること、こんな北信になったらいいんじゃないか、こんな長野県になったら、絶対、友だちをいっぱい呼んでくるからというようなことを、ぜひ具体化させて、今日のこの付箋にビシッと張り出すだけじゃなくて、ぜひほかの人たちに広げて、伝染させて、理解者を増やして、それをぜひ実現させていき

いと私は思っていますので、是非ご協力をお願いします。アッキーに任せますので。

【倉根明德氏】

ありがとうございます。まだ知事ですから、まだちょっと緊張しています。ということで、机の上においしいお菓子があるんですけど、これ、中野市のですね、果実企画さんからプレゼントをしていただいたので、皆さん、遠慮なくパクパク食べてください。実はこれ、知っている方は知っていると思いますけど、長野駅のMIDORIで売ってしまして、結構お高いです。なので、なかなか買えないので、今日はプレゼントなので、パクパク食べてください。本当につまみながら、飲みながらやっていただければいいなと、よろしくお願いします。

ということで、本日のテーマ、あそこにも書いてありますが、「この地域に若者を呼び込むには？」というテーマで会話をしていきたいと思いますが、この地域というところだけちょっと注意していただいて。「信州」というとちょっと大き過ぎるので、やっぱり中野・飯山とか、この辺の地域というイメージでやってほしいなと思います。あまり「信州」とか、「日本」とか言っちゃうと、一般論みたいになってしまうので、あえて今日は中野・飯山地域に若者を呼び込むためにはというので、皆さんが日ごろ考えているアイデアをどんどん出していただきたいと思います。多分、いろいろな人のアイデアを聞くと、それに触発されて、だったらこういうのもあるんじゃないっていうのが出てくるとと思いますが、それがワールド・カフェのおもしろいところなんで、ぜひいろいろな人の意見を聞きつつ、自分の意見を話していただきたいと思います。

では、まず第1ラウンドですね。今から20分、まずは15秒ぐらいで簡単な自己紹介をお願いします。今日、呼んでほしいニックネームと、仕事だったり趣味だったり、こんなことをしていますよというのを15秒ぐらいで言ってください。で、続いてもうアイデアをどんどん交換していってもらいますし、気になったことはどんどん張っていってもらうというような流れになります。で、20分後に、私、手を上げますからね、気づいた方は手を上げて前を向ってください。

なお、各テーブルには、テーブルホストという、SHIPのメンバーなんですけど、手を上げてもらっていいですか。テーブルホストがいます。この方々が、皆さんが貼った付箋をちょっと整理したりとか、いろいろやってくれますので、何か困ったらテーブルホストにお願いしたりしてくればいいかと思います。ということで、今、12分なので、38分ぐらいまで、20分間、やってもらいたいと思います。ではよろしくお願いします。

(第1ラウンド開始)

(第1ラウンド終了)

【倉根明德氏】

一旦席についたら、また前を向いていただいて。

第2ラウンド、いいですか。第2ラウンドもテーマは一緒ですので、最初に自己紹介を、

さっきと同じように15秒でしていただいて、ちょっと違うのは、テーブルホストから、第1ラウンド、こんな話が出ましたよという説明があります。で、それを聞いて、さらにそういう意見があるんだったらこういう意見もあるよねとか、さっきのテーブルではこんな意見があったよとか、こういう視点もあるんじゃないかというところで広げていってもらいたいと思います。

ということで、また今から20分間で。では始めてください。

(第2ラウンド開始)

(第2ラウンド終了)

【倉根明德氏】

やっぱり2回目は早いんですね。次、最後ですね。3ラウンドですけど、今見ると、第2ラウンド、何か悪い意見がどんどん増えてきちゃっているのもっとポジティブ、ポジティブに行きましょう。我々が将来暮らしたくなるような地域にするにはどうしたらいいのかっていう考えを、最後の20分間は話してもらいたいと思います。

そうしたら、次のテーブルに移ってください。じゃあ、第3ラウンドも同じで、最初に簡単な自己紹介をしていただいて、テーブルホストから第1、第2ラウンドの様子を聴かせていただいて、最後にアイデア出し。最後、ポジティブに行きたいですね。ポジティブなアイデアを交換したいと思います。では、第3ラウンド、よろしくお願いします。

(第3ラウンド開始)

(第3ラウンド終了)

3 全体共有

【倉根明德氏】

はい、ありがとうございます。お疲れ様でした。いや、1時間していただきましたが、どうですか。何かもう付箋の数を見るとすごい数なので、たくさん意見が出たと思いますが、これから、他のテーブルでどんな話をしていたんだろうというところを、皆さんで共有したいなあと思います。

ということで、全体共有です。まずテーブルファシリテーターから各テーブルでどんな話がありましたかというのを簡単に発表してもらいます。その後に手を挙げていただいて、参加者の意見を伺いたいと思います。

意見を言うときは、思ったこと、わかったこと、次やりたいこと、この点をですね中心に言っていただけると言いやすいと思います。この中の一つだけでもいいですし、今日の感想だと

かですね、そんなこと知らなかったとかですね、今度から私はこの地域でこんなことをやっていきたいとかですね、そういう目標もあわせて聞きたいと思います。

では、まず最初に、テーブルファシリテーターから、今日の話を経括してもらいますが、A班からでいいですかね。お願いします。

【A班】

A班の話、よろしくお願いします。A班で話をしたところですけども、いろいろあって、最初の方で良い所はあるんだけど、まず、観光とかって点で見ると自分たちが住んでいる所が意外と分かってなくて、結局、住んでるんだけど、友達が来たら善光寺案内して終わっちゃったとかってことで、自分のこと分かってないってことと、あと、定住してもらって観点で見ると自分がやりたい仕事、やりがいがある仕事があるのかなあ、はたしてあるのかなあみたいな話をしました。

その後で、2回目、3回目では仕事っていう話を結構してたんですけども、出たのは、森林っていうすごい大規模、有り余っている資源があるので、これを使って家具とかをつくるのもいいですし、森林でバイオマスやるみたいなことで、森林を資源とした仕事できないかなあって話。あと、もう1つ最後のところが出たのは、結局、こんな良い環境なんで、芸術とかアートというのには非常に良い環境なんじゃないのか、そういうのやりたい人を呼んできて実際定住したという例もあるので、そういうのやってみたらどうかなあみたいな話をしました。以上です。

【倉根明德氏】

ありがとうございました。次はB、お願いします。

【B班】

B班でテーブルファシリをさせていただきました。よろしくお願いします。

一つ目のグループは地元、スキーの話が発展したんですけども、スキーをやる環境ってのも、例えば5分でリフトに乗れるですとか、スキー場にいるみんなが顔見知りである状況だと2歳の子どもので一発目からリフトに乗せちゃうとかですね、地元ならではの顔の見える関係とかっていうのはすごいいいなってことだったんですが、そうは言っても仕事やっていけば、そういった趣味っていうものも充実したいけどできないねっていう、ちょっとそんな話でした。

2つ目のセッションでは女性っていうのがキーワードでして、女性が魅力を感じないような職業っていうのは今後なかなか難しいんじゃないかっていうことで、いかに女性ですとか林業、農業、そういったところに女性をどうやって巻き込んでいくのかっていうのは、これから発信とか売り方とか、そういったところを工夫して女性を巻き込めるような、そういうような地元になればいいなというような話でした。

3つ目のセッションでは、今、結構、社会貢献を仕事の中に取り入れる企業さんというのが増えてきているので、例えば県産材の家具ですとか、地域性のあるような仕事を生み出すこと、

それは地元の歴史とか背景とかそういったものをバックグラウンドにしてつくってあげれば、その歴史背景みたいないろいろ深いところがあるので、みんなで勉強していったらどうかというようにお話でした。以上です。

【C班】

C班のテーブルホストを務めさせていただきました。今日はありがとうございました。C班ではセッション毎といいますか、3つ大きなテーマが出まして、まず、こちらのキーワード入ったのが、仕事をどうつくりたいかというテーマから来まして、仕事がないとまず地域に住めない、生活できないという意見が出まして。そこから農業と女性。農業やってる女性って最近増えているよね、まず、女性がいないと盛り上がりませんよねっていう話も出ました。

もう一つ、ここの仕事をつくるというところで、「嫁ターン」「旦那ターン」という面白い言葉を上田の市役所の方が出してくれて、お嫁さんが北信地域にいるから東京の旦那さんが来たとか、まだ計画は全然立ててないっていうか含まれてないですけども、そういう面白いキーワードが出ました。

次にですね、北信地域を広域連携させようという意見が出まして、こちら辺、中野市、飯山、長野市とかいろいろついてあるんですけども、一つの地域ではできないけど、飯山や長野、駅のある地域を中心にしてそこからアウトドアとか、最近、飯山、アウトドア発展していると思うんですけども、そこからお客さん流したりとか、そこから農業発展したからそっちに農業体験とかでお客さん流れたりとか、そういう意見が出ました。一つではできないけど北信地域で力を合わせて連携すれば何かできるんじゃないかという意見が出ました。

最後に、情報発信という分野で、北信地域にはカッコいい人達がいっぱいいるのに、全然みんな知らないよねっていう話が出ました。若い人達で活躍している方、農業とかのお仕事で活躍されてる方いらっしゃるのに、本当にこれ、カッコいい人達いるのならそういう人達に近づきたい、また、その人達に仕事教わりたいって方が実際に遠くの方からも来てくれるんじゃないかっていう意見が出ました。そして、今日、木工作家の方がいらっしゃるんですけども、ほんとすごい方で、ほんとカッコいい人だということでみんなで共感したんですけども。県知事の、ガバナーさんのお話が出まして、一個、何かプロジェクトが始まりそうな勢いなので、私はすごいC班にいてわくわくしてました。ありがとうございました。

【倉根明德氏】

ありがとうございました。次、D班。

【D班】

ありがとうございました。D班のテーブルファシリテーターを務めさせていただきました。このグループのセッション毎というよりは、3つのテーマに分けて発表をさせていただきたいんですけども、まず一つは、やはり一番多く意見が出たのが仕事がないということで、やっぱり県単位だったりその地域単位で大きな意味で、例えば南、南信のほうでしたら今、航空業盛んになってきているので、そういうのを受け容れる大きい受け皿を構えると、若い人達もそ

ここに飛び込みやすいんじゃないかという意見がありました。

2つ目のテーマが、やはり情報発信がしっかりできていないということで、長野県広くてこんなに情報量があるのに、でも、広いからこそ伝わってないっていうところがあって、そういうものをやっぱり一括して、これだけ情報があるんだよっていうのをテーマ別に発信したりですとか、また、双方にそういう情報をやりとりすることが必要なんじゃないかという意見が出ました。

あと、3つ目が住みやすさについてなんですけれども、特にこの北信地域、雪が多くって、そこに住んでいる人からしたらそれは当たり前なんですけど、外から来た人だとかなりびっくりしてしまって、例えば融雪に係る費用が家賃に入っていたりしてちょっと住みにくいところあるとか、あとは障がいもった方とか高齢者が住みにくい地域でもあるので、そういったところの配慮が必要んじゃないかという意見が出ました。以上です。

【倉根明德氏】

ありがとうございました。最後、E班お願いします。

【E班】

E班でテーブルホストを務めさせていただきました。めっちゃ緊張しながらやりました。最初の一グループ目のほうなんですけれども、まず、地域に若者を呼び込むって何だろうって思ったときに、遊びって面と定住っていう側面があるなあと思いました。特にこちらの班では定住について話を深めていこうっていう感じでしたね。まず、定住について深めていこうってなったときに、皆さんも思われたと思うんですけれども、やっぱり仕事っていうのが重要なことになりますね。その仕事の中でも、じゃあ中野市飯山地域でやりたい仕事、やりがいのある仕事、それがあれば東京ではなくこちらのほうに来てくれるんじゃないか、って話が進みました。そのやりがいのある仕事って何だろう。森林、猟師だったり、とかって感じなんですけれども、すごい私の中で印象的だった話が、土がない、東京には土がないって話なんですよ。花壇つくるにしても土がないから買って来て。捨てるにしたってすごい面倒臭い作業がある。私、それ聴いてすごいびっくりして、土なんてそこらで取ってこれるしそこらに捨てちゃえばいいっていう、本当にそういう感じて、地元にとって無視されているもの、もしくはマイナスになっているもの、猟師の世界だったら鹿だったりするんですけど、そういったものを有効活用できないかっていう感じです。それに対して社会貢献的なやりたいっていう気持ち、魅力があれば場所は問わないっていうことでやっていけたらいいな。そのために何が必要かっていえば移住者にとって一番つらいのは孤独かなど。人とのつながりがまだ希薄だっていう点はちょっとさみしいなって思うので、そういう意味で人脈づくり、基盤、あいさつだとかそういった本当に基本的なことなんですけれども、そういったことだったりとか、こういうふうな場をどんどんやっていけたらなって思っていて、最後にそういう東京、関東地域の方でたくさん失敗しても帰ってこれる場所があるよっていうことで、こういった地域のことをアピールしていけたらなって最後まとまりました。以上になります。

【倉根明德氏】

ありがとうございました。

仕事がないとかっていう意見がいっぱい出ましたね。汚い字ですけどもこれ見ていただいて。どうですか、今日こんなこと気付いたとかですね、思ったという意見ある方、是非挙手をしていただいて。いますか、発表してもらいたいと思いますが。はい。

【参加者男性1】

僕は木の仕事をしていますので、長野県の針葉樹ですね、特に木が余っているということがとても気になっていて、それと東京で移住したいという若者がたくさんいると。実際に今日そこに参加している人も東京でそれなりの大きな会社でおもちゃのデザインしていたんですけども、彼はもっと大量生産のプラスチックのおもちゃをつくるより地方で環境循環型の製品をつくっていききたいということでこちらに移り住んできたんですね。

ですから、そういったことをやるにはとても魅力ある場所なので、森林、長野県には森が余っていて、東京から若者が移住したいのであればそれを仕事にしていくというのがいいのではないかというふうに思っています。以上です。

【倉根明德氏】

ありがとうございました。他にどうでしょうか、あと2人くらい。いいですか、はい。

【参加者男性2】

僕は去年の3月に大学を卒業してこっちに戻ってきて、じいちゃんとかばあちゃんとかがひたすらスナップされているフリーペーパーをつくって、こっちの当たり前のことだったりだとか面白いことをどうやって発信していこうかなって考えたりしているところなんですけれども、実際僕が今いて感じることは、お隣の中野市だったり飯山市だったり木島平だったり野沢温泉の面白い人達だったりとか面白いこととかは、実際飯山に住んでいながら全然情報が入ってこないんで、やっぱりそういうところの情報が分かるサイトだったりとか集まりだったりとか今日のこういう場みたいなものをこれから何人かの人と計画しながらだったりやっていきたいなと思ってるので、是非皆さんと協力しあってそういう場を増やしていけたらいいなあって思いました。

【倉根明德氏】

ありがとうございました。他に。じゃあガバナーさん、今はガバナーさんの立場で発言していただければと思いますけど。

【長野県知事 阿部守一】

ガバナーって、知事じゃなくてね。

【倉根明德氏】

知事じゃなくて、ガバナーさんで。

【長野県知事 阿部守一】

C班に参加して私が気がついたのは、行政のPRはつまらないなど。ここにいいものがあるとかこんな景色がきれいだっていうことばかり発信しているんですけど、やっぱり一番発信しなければいけないのはかっこいい人だと。やっぱり新しい暮らし方だったり新しい仕事だったり、そういうものを自分でやってく人達をもっとフォーカスして、スポットライトを浴びてもらって、ああいう暮らしをしたい、あんなに楽しそうに暮らしているじゃないか、ということをもっと行政が発信すべきじゃないかなあと思って思いました。以上です。

【倉根明德氏】

まさかガバナーさんから行政批判が出るとは。ありがとうございます。

こんな意見が出ました。そうですね、私が今聞いていてやっぱり思ったのが、よく言われていますけど、地域のことをわかっていない、本当にそうかなと。よく、つまらない、つまらないというけれども、外から来る人はすごい楽しい、楽しいって入ってくるので、そのギャップって何で生まれてしまうのかなというところは、すごい気になっていますね。

その中でやっぱり、ここには森林がたくさん財産として余っている。この活用というのは、長野県全体、森林県なのでありますけれども、この地域って考えたときに、森林というのはすごい発信力というかですね、魅力になるんじゃないかと思えます。

また女性も、私の周りにも強い女性がいっぱいいますけれども、もう女性だから何とかという時代ではなくなってきているので、女性が林業とか農業にどんどん出て行ってもらいたいですね。ついこの間も農業女子とか発表されましたけれども、やっぱり輝いていますよね、ああいう女性って。ああいう女性、輝いている女性に憧れて、また女性が来たり、その女性を追っかけて男性が来たり、そして旦那さんになったり、お嫁さんになったりするんですよ。だからそういう形で、この地域にあるものというのはまだ発信し切れていないのかなというのは、すごい思いました。

情報発信が足りないというのもガバナーさんからも出ましたけれども、ありますよね。ただ、フェイスブックで載せればみんなが見てくれると思ったら、やっぱりそれも違いますし、私たちがここに住んでいて四国の情報が入ってくるということは、やっぱり発信の仕方がうまいから入ってくるのであって、そういうところは見習っていくといいのかなと。

特に、ちょっと出ましたけれども、雪とか、豪雪地帯というキーワード。本当に外国人とか、ジャパンパウダーという言葉があるぐらい、日本の雪というのは外国人にとって天国みたいな感じらしいので、何かこれを売りにしていくというのはこの地域の強みになっていくのかなと思えますね。スキーの環境がいいとかね。テーブルファシリのAさんがスキーのプロフェッショナルなので、最初からスキーの話ばかりしていましたがけれども。

やっぱり外国人にとっても、日本人にとっても、長野県のスキー場ってものすごい魅力的なので、そういうところを発信して行って、多分、そういうことをしていく中で、一番大事なものは、どこかにありましたけれども、地域に住んでいる人がこの地域に住んでいるという

ことを楽しむということが大事かなと。楽しいことって、どうしても発信したくなってくると思うんです。それで東京の友だちに、さっき善光寺を紹介したと言っていましたけれども、善光寺だけじゃなくて、中野のここ、飯山のここというのを紹介して、そして東京の人がまた遊びに来るとかですね、何かそういううまいサイクルができてくればいいかなと。

それと、本当にかっこいい人っていっぱいいますよね。私も何人も出会いましたが、やっぱりそういう人を発信していくと、かっこいい人にはかっこいい人とかが集まってきますし、やっぱりそういうことで、この地域というのはどんどん盛り上がっていくんじゃないかな、若者がどんどん集まってくるんじゃないかなと思いました。集まってくれば、多分、すごい楽観的ですけども、仕事もできるんじゃないかと。仕事がない、ないと言っているけれども、仕事は多分、つくればいいんじゃないかなと。人がいっぱい集まってくれば自然と何か仕事ができる。ちょっと無責任なことを言っていますけれども、できるんじゃないかなと思います。

産業振興してくれとかじゃなくて、自分たちでつくってしまえばいい。結構最近の若い人たち、大学を卒業してすぐ起業しましたとかたくさんいて、アグレッシブなので、長野といえば起業とか、長野といえば自然だとか、すごい遊べるよとかというのを発信していけばいいかなと思います。

なので、仕事の確保とか情報発信、女性とか出ましたが、もう中野・飯山地域で若者を呼び込む素材はたくさんあるのかなと思います。あとは住んでいる人がどうやって発信しているかって、どうやって遊んでいるかって、どうやってこの魅力を伝えていくかということにかかっているかなというのが、すみません、もう突然入っていましたけれども、カフェホストとしての総括ということで閉めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

ちょうど時間ですね、7時半になりましたので、今日の若者タウンミーティングを終わらせていただきたいと思います。最後に、ふり返しシートというのが皆さん、最初に配られた紙の中にあるかと思うので、帰るときにはそれを記入していただいて帰っていただきたいと思います。

ということで、ワールド・カフェはこれで終わりたいと思います。いいですか、はい。では替わりますね、司会を。ありがとうございました。

すみません、大事なことを忘れていました。みなさんニックネームを外してもらって、いつもの自分に戻りましょう。ガバナーさんにもここで阿部知事にお戻りいただいて、最後に阿部知事としての一言をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

4 知事総括

【長野県知事 阿部守一】

今日はありがとうございました。ここから県知事に戻らせてもらいますけれども、冒頭お話したように、長野県の未来を創るのは、若い皆さんがどういう地域にしたいかということが一番大事だと思います。私は、何と云うか私の子供の頃、油井さんが宇宙飛行士で宇宙に行きま

すけれども、アポロ11号でアームストロング船長が月を踏む姿を子供ながらにテレビで見て、人類はやろうと思えば何でもできるんだなと思った記憶がありますが、私は、みんなが願って、それに向けて行動すればできないことはないと思っています。ただ、その前提で、やっぱりね、具体的にイメージできないものは実現しないんですよ。だから、こういうもの、例えばスティーブ・ジョブズが多分i phoneみたいなものをつくりたいっていうのは相当具体的にイメージしてつくったと思いますけれども、やっぱりこの地域、例えば北信だったら北信、あるいは中野市だったら中野市、あるいは長野県だったら長野県、こうしたいなあと、それをやはり具体的な形としてイメージできないと、多分10年経っても20年経っても、私は実現しない、みんな漠然とこんなこといいなあってと思っているだけでは実現しない。だけど、具体的にこうしたい、これが必要だ、こういう県になったらいいよなっていうものをみんなで共有できれば、私は必ず実現すると思っています。そういう意味で今日のタウンミーティング、まだ欲求不満の人達もいっぱいいるんだと思いますが、さっきも話が出てたように、皆さん同士でもね、自主的にどんどん繋がり合ってもらって、中野市こうしようぜと、北信何だ、他の地域に負けてるじゃないかと、もっとこんな良い所があるけどどうにかできないかってことを是非一緒に考えて、それを具体的にイメージできる形にしてもらいたいと思って、その具体的なイメージになったときに、県にこれやらせなきゃいけないと、知事はあんな偉そうなことを言ってたから今度押しかけてやらせなきゃいけないとかですね、あるいは地元の市町村長に言ってかなきゃいけない、あるいは今日は県議会の皆さんもいらっしゃると思いますけれども、自分達の代表にこれを託さなければいけない、そういう具体的なイメージをつくった後に、自分なりにできることは何か、知事にやらせなきゃいけないことは何か、そういうことをちょっと考えてもらうと長野県は格段に変わっていくんじゃないかなと思っています。今日はその第一歩ということで、皆さんからいろんなお話を出してもらったんで、私も言いたいことはいっぱいありますけれども、今日は言うのは抑えてですね、やってますけど、でも皆さんから多くのことをですね、今日は私も気付かせてもらいましたので、それを県政に実現できるように頑張っていきたいと思っていますので。

是非皆さんもね、私だけでは長野県良くなりません、私が何したって。私が逆立ちしても長野県が私だけで良くなるわけがないので。農業良くしようと思ったって私ができることは限られています。医療を充実させようと思ったって私ができることは限られています。でも、長野県に住む若者達がこうしたい、と思えば、それが具体化できれば、必ず実現すると思っていますので、是非、今日を機会に、もっともっと皆さん同士繋がっていただいて、より良い長野県像、地域像、そういうものをいろんなところで語り合ってもらえればと思います。

最後、長い話にしてしまっていて恐縮でありますけれども、あらためて参会いただいた皆様方に県知事として心から御礼を申し上げ、この会を締めくくりたいと思います。ありがとうございました。

5 閉 会

【広報県民課長 藤森茂晴】

倉根さん、それから皆様、どうもありがとうございました。

若者の皆様とのタウンミーティングですけれども、今年度については複数回開催する予定になっております。次回以降もこのような意見交換を多くの若者の皆様と行っていく予定でございます。

それではこれもちまして、県政タウンミーティング、終了させていただきたいと思っております。長時間にわたり、本当にありがとうございました。